10.運動・スポーツ分野

評価の視点

スポーツ分野での政策評価を行うにあたり、平成15年度から10年間にわたる石川県のスポーツ振興の方策を示した、「**石川のスポーツビジョン**」（平成15年3月策定）の中から、以下の視点にもとづき、県政評価のポイントとなる論点を示すこととした。

基本視点「**ライフステージに応じたスポーツ活動の充実**」

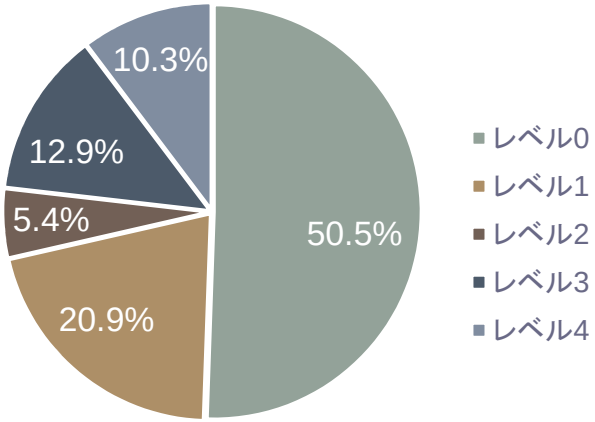
（引用：石川のスポーツビジョン「基本理念」）

- （1）生涯スポーツの振興
  ①県民の運動・スポーツ活動実施率
  ②県民スポーツ・レクリエーション祭参加者数
  ③総合型地域スポーツクラブ育成状況
- （2）学校体育・スポーツの充実
  ①本県児童生徒の体力・運動能力の推移
  ②本県児童生徒の週3日以上運動・スポーツをする割合（体育の授業を除く）
  （3）競技スポーツの振興
  国民体育大会総合成績（天皇杯）

（1）生涯スポーツの振興
①県民の運動・スポーツ活動実施率

データ出所：
・県民の運動・スポーツ活動状況調査報告書
（石川県教育委員会，平成24年3月）
・県民の運動・スポーツに関するアンケート結果
（石川県教育委員会，平成13年11月実施）

（1）運動・スポーツ活動実施率
※年間 （H24調査結果）

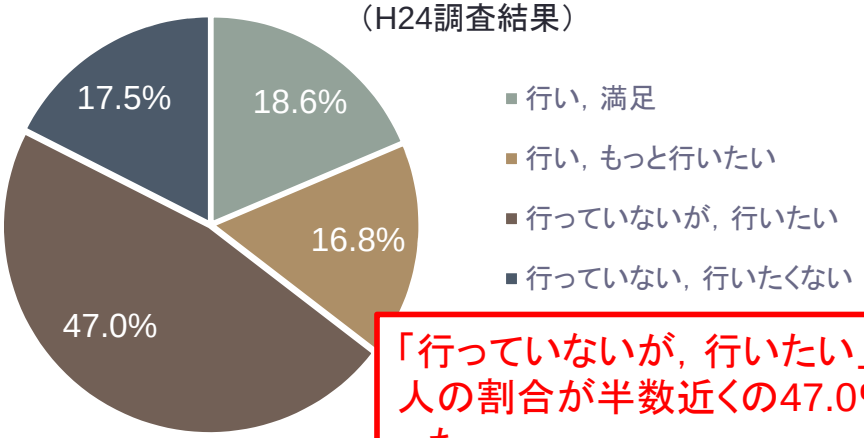


運動・スポーツ活動実施レベル指標

実施レベル	定義
レベル0	過去1年間にまったく運動・スポーツ活動を実施しなかった
レベル1	年1回以上，週2回未満（1～103回/年）
レベル2	週2回以上（104回以上/年）
レベル3	週2回以上，1回30分以上
レベル4	週2回以上，1回30分以上，運動強度「ややきつい」以上

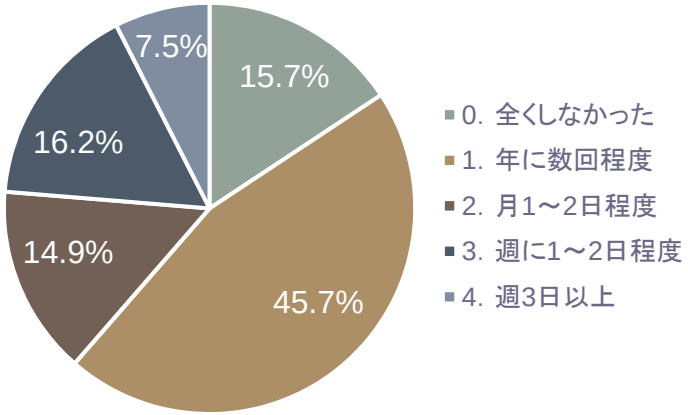
過去1年間に運動・スポーツ活動を実施した人は49.4%であった。
H13からH24 にかけ運動・スポーツ活動実施率が低下している。

（2）運動・スポーツ活動の実施と満足度
（H24調査結果）



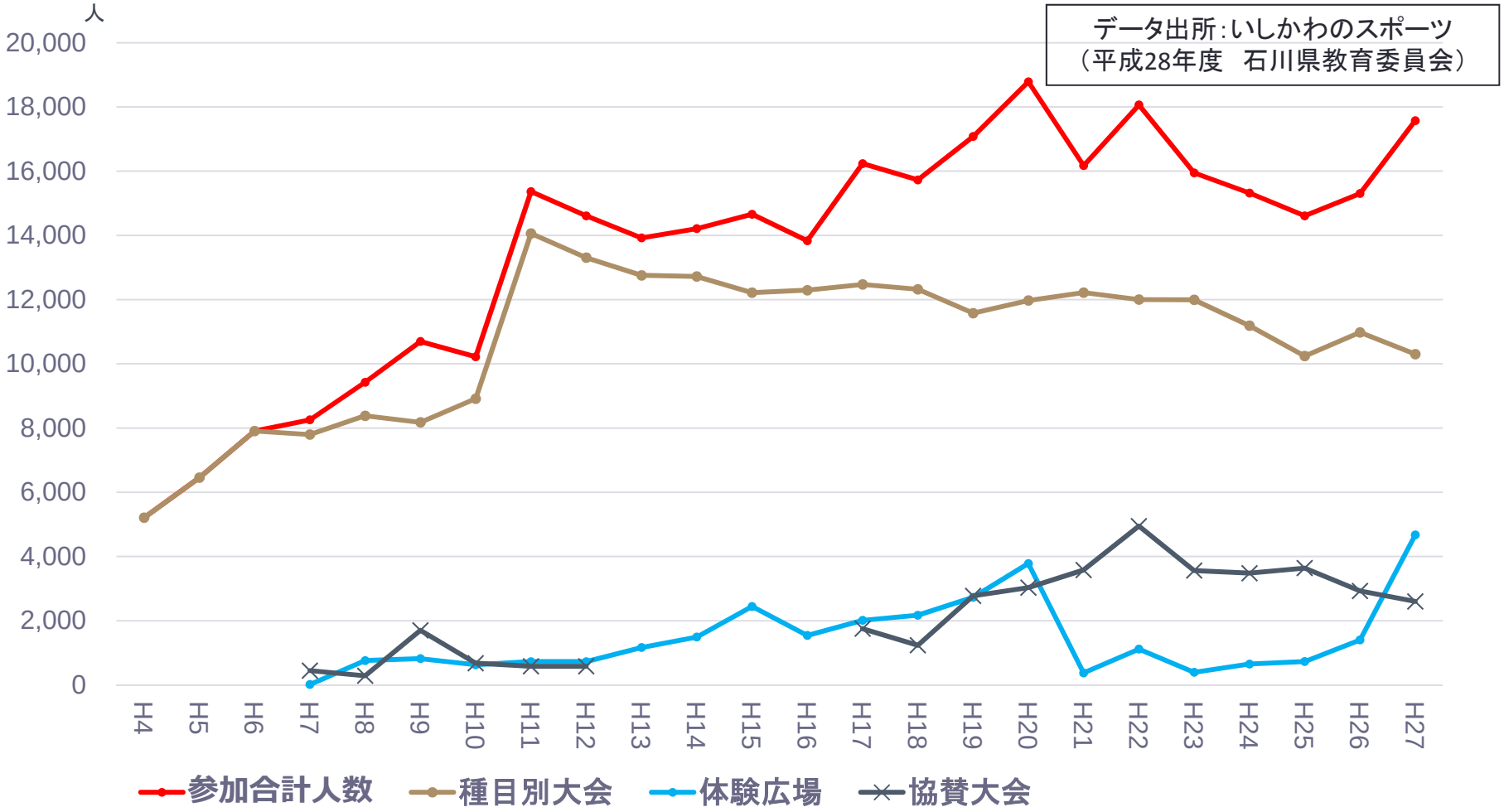
「行っていないが，行いたい」という人の割合が半数近くの47.0%であった。

（参考）この1年間に運動やスポーツをどの程度しましたか。（H13調査結果）



（1）生涯スポーツの振興

②県民スポーツ・レクリエーション祭参加者状況（H4~H27）

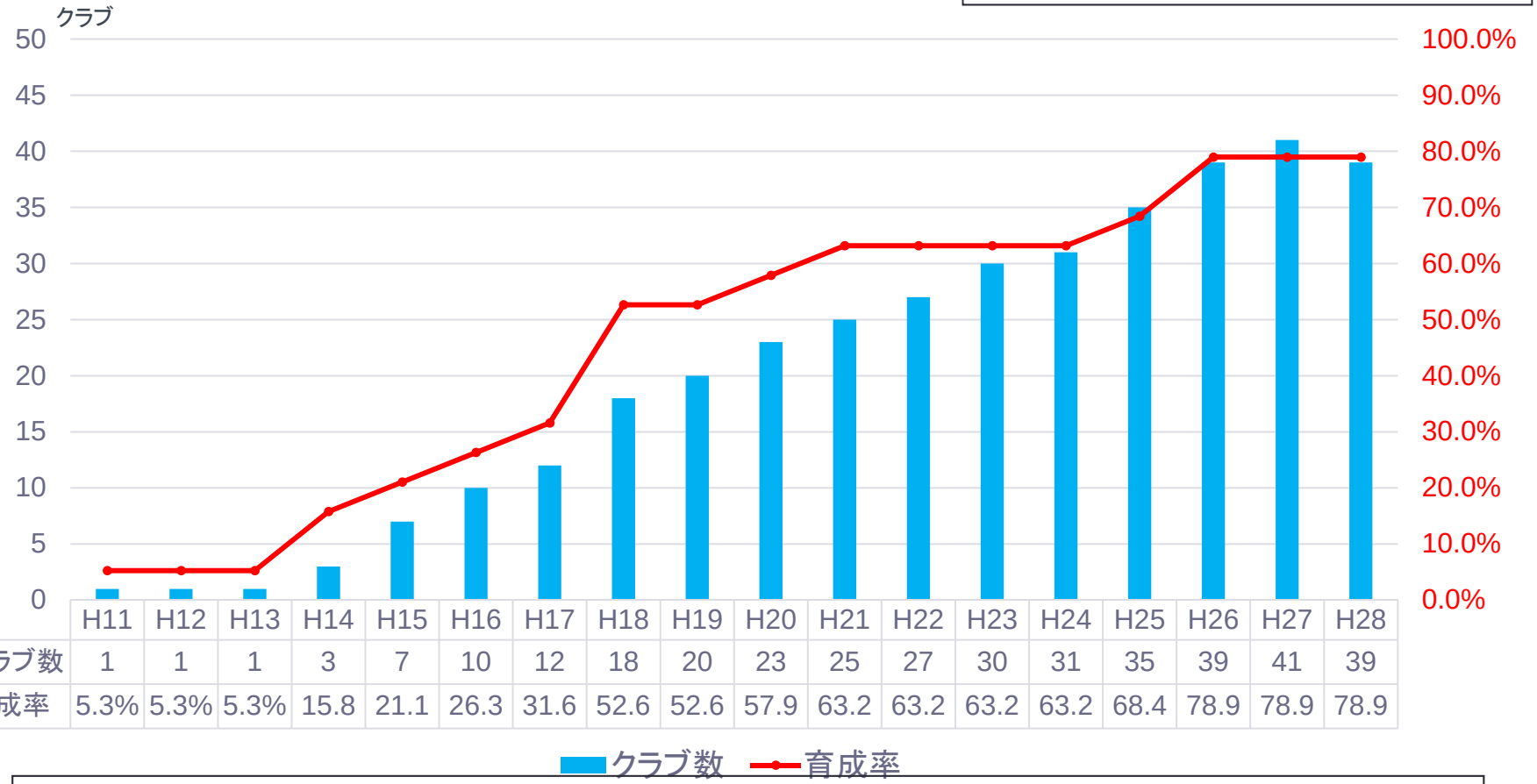


「種目別大会」に加え「体験広場」、「協賛大会」などの追加により、参加者数は増加傾向にある

（1）生涯スポーツの振興

③総合型地域スポーツクラブ育成状況

データ出所：
総合型地域スポーツクラブに関する実態調査
（平成20年度～28年度）をもとに作成



	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
クラブ数	1	1	1	3	7	10	12	18	20	23	25	27	30	31	35	39	41	39
育成率	5.3%	5.3%	5.3%	15.8	21.1	26.3	31.6	52.6	52.6	57.9	63.2	63.2	63.2	63.2	68.4	78.9	78.9	78.9

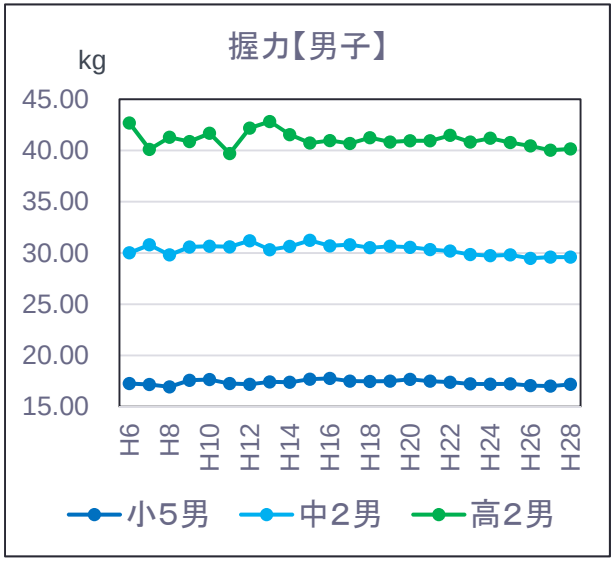
※1　クラブ数には設立準備中を含む
※2　育成率は設立準備中を含む，クラブ設置済み市町の割合　（ただし，市町村合併後の「19市町」にて算出した）

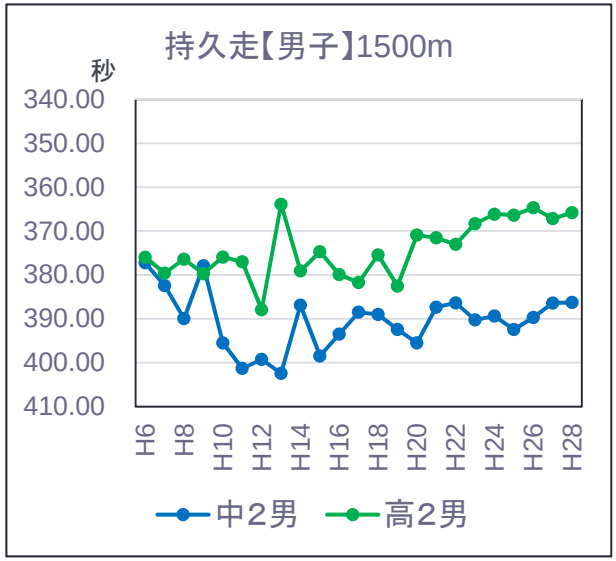
クラブ数及び育成率は増加傾向から、横ばいへ転じている（全国的な動向に同じ）

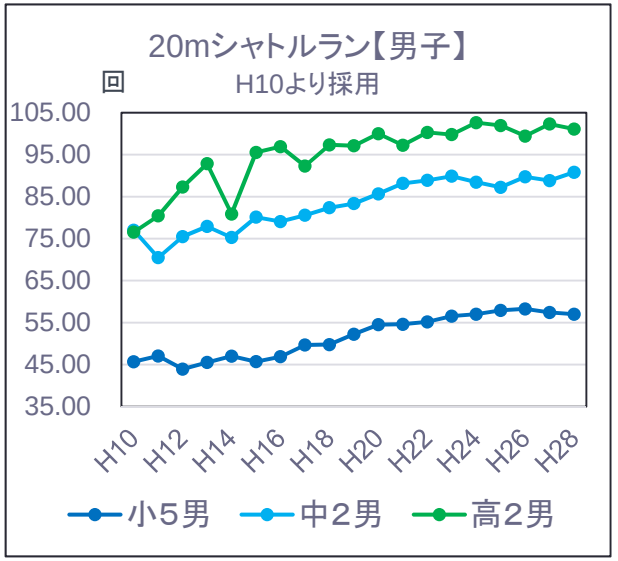
(2)学校体育・スポーツの充実

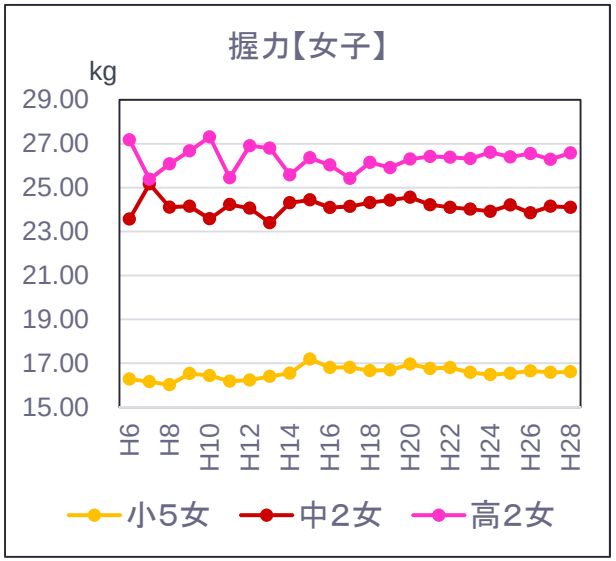
データ出所：
石川県児童生徒の体力・運動能力調査報告書

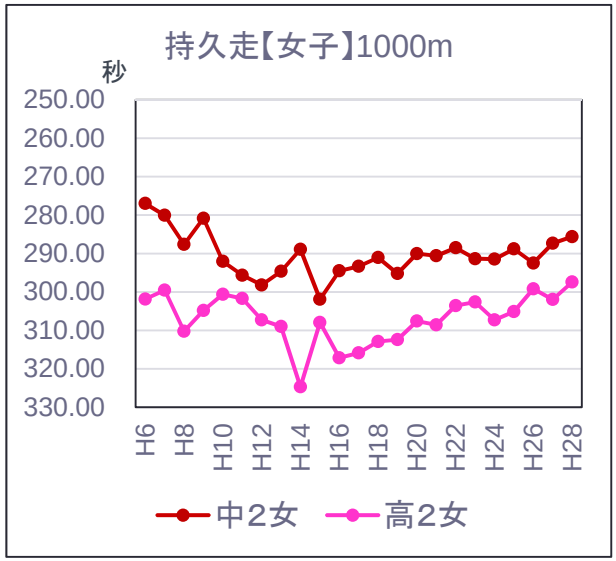
①－1本県児童生徒の体力・運動能力の推移

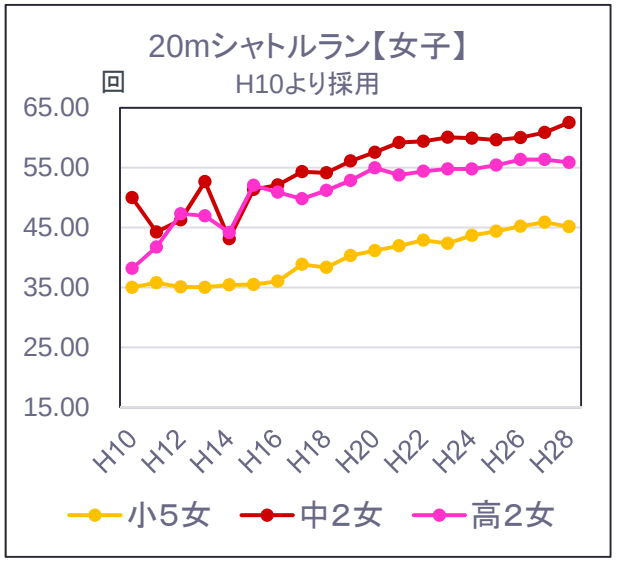








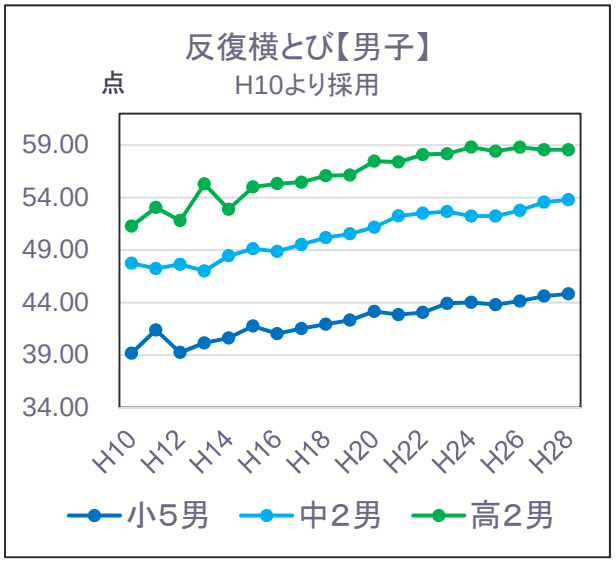


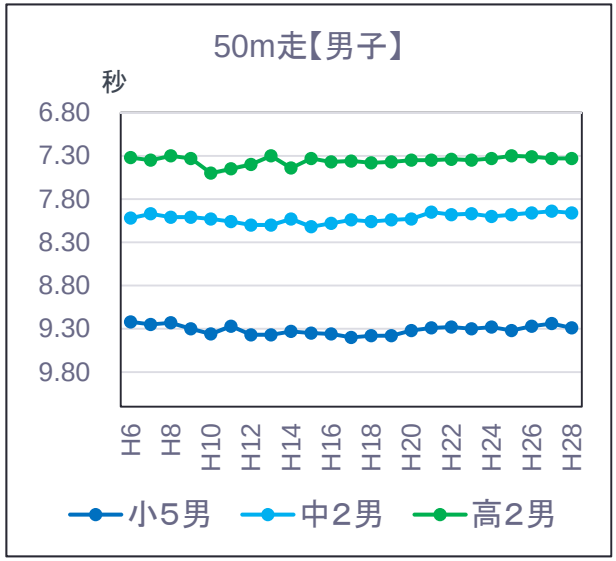


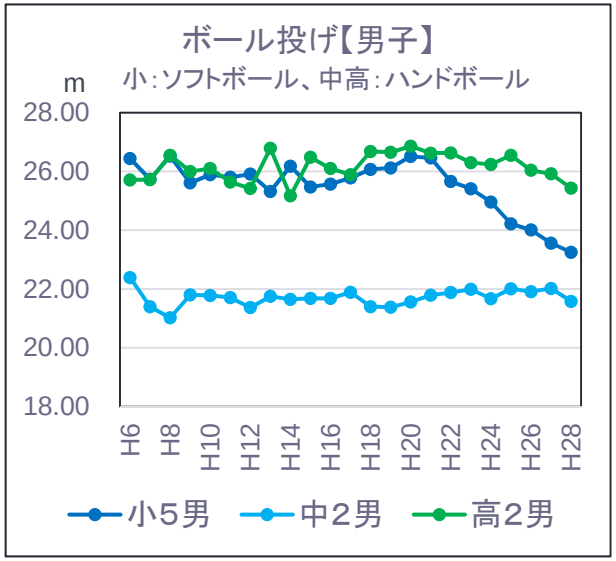
(2)学校体育・スポーツの充実

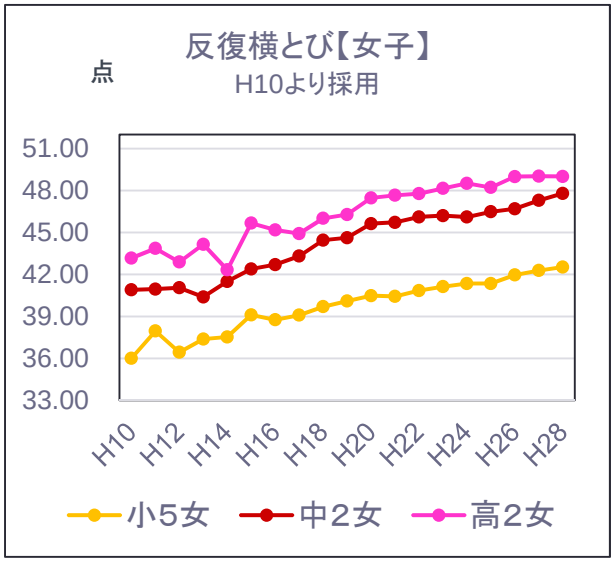
データ出所：
石川県児童生徒の体力・運動能力調査報告書

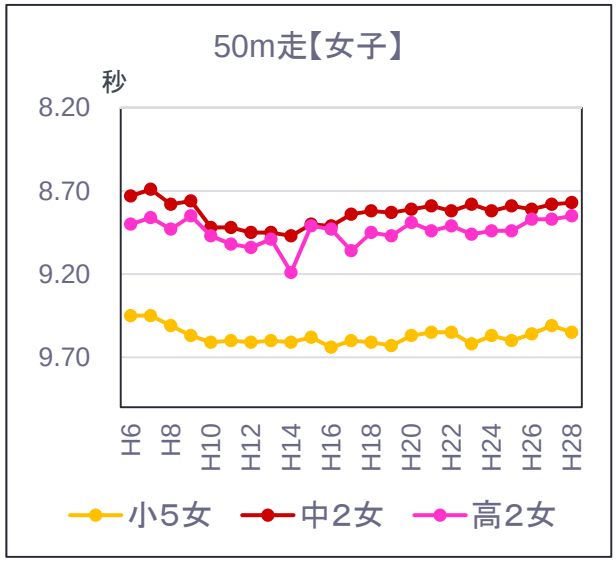
①－2本県児童生徒の体力・運動能力の推移

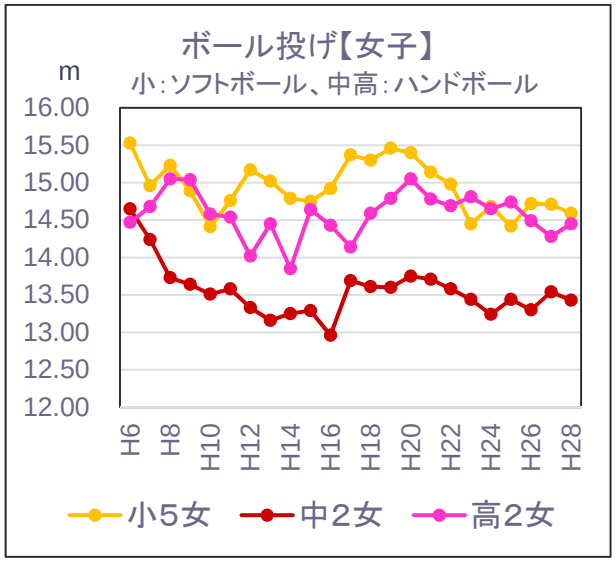








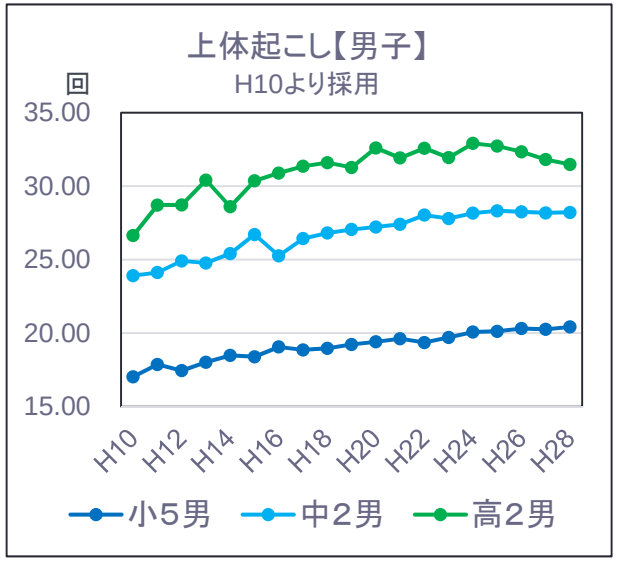


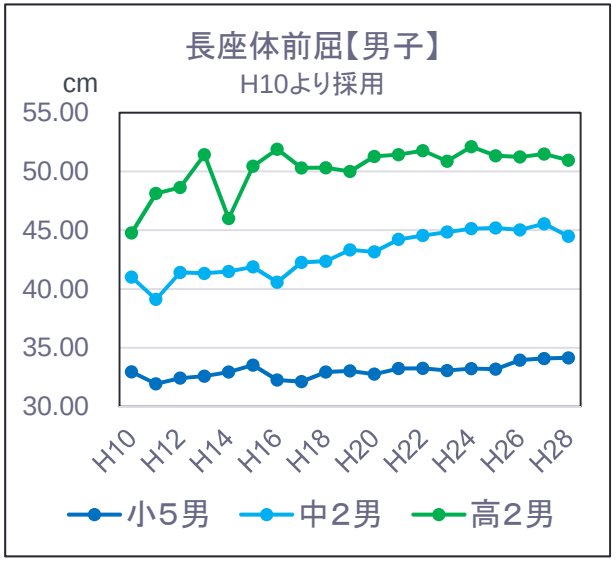


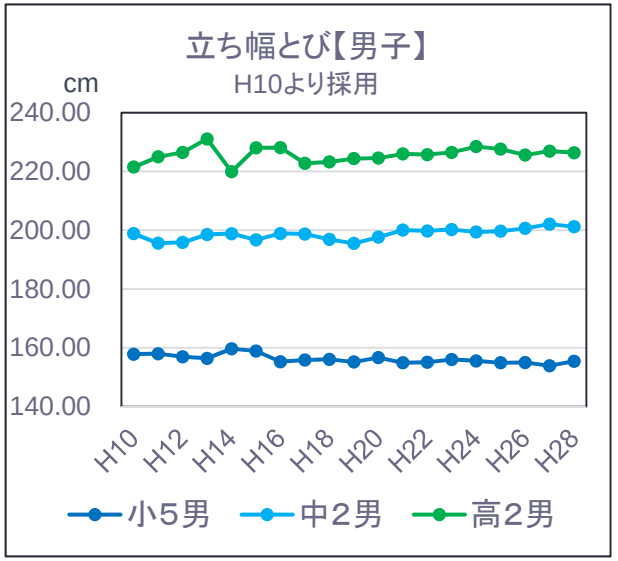
(2)学校体育・スポーツの充実

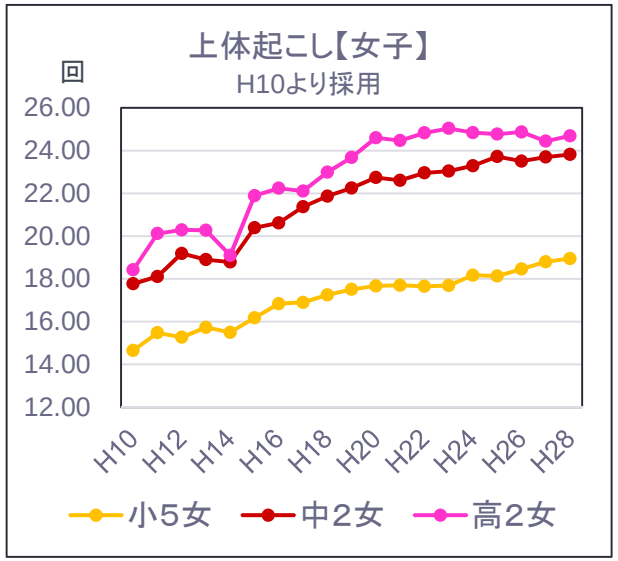
データ出所：
石川県児童生徒の体力・運動能力調査報告書

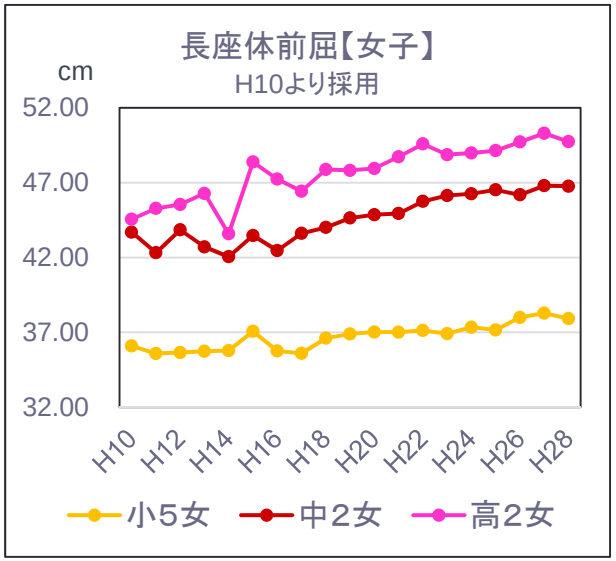
①ー3本県児童生徒の体力・運動能力の推移

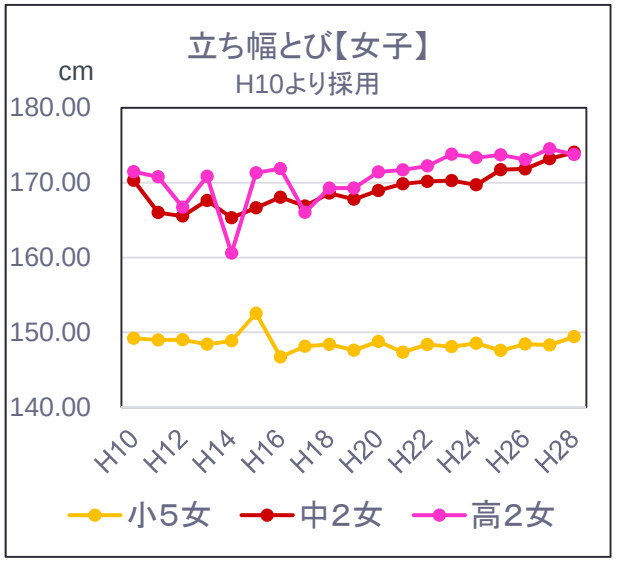








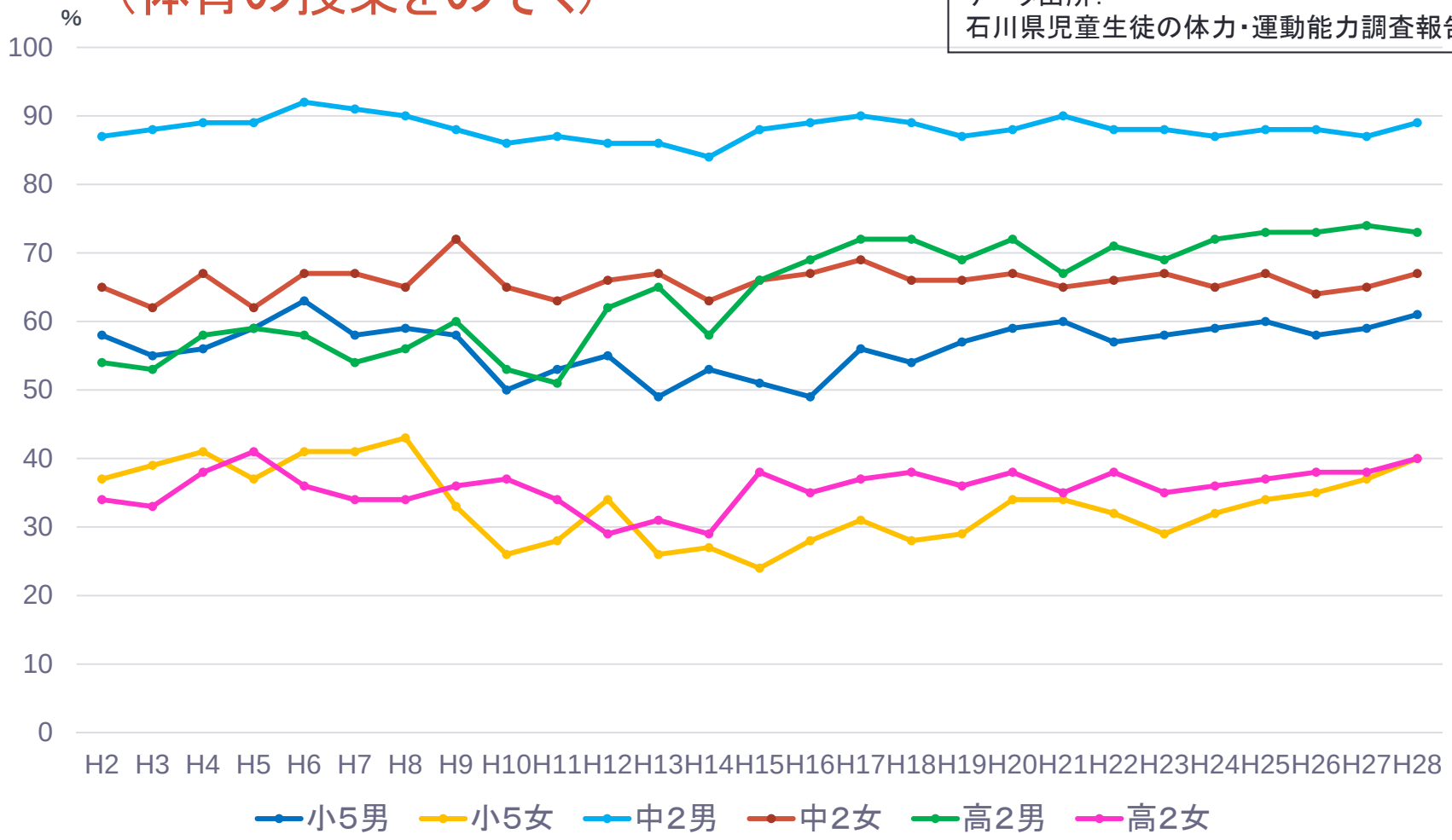




（2）学校体育・スポーツの充実

②本県児童生徒の週3日以上運動・スポーツをする割合（体育の授業をのぞく）

データ出所：
石川県児童生徒の体力・運動能力調査報告書

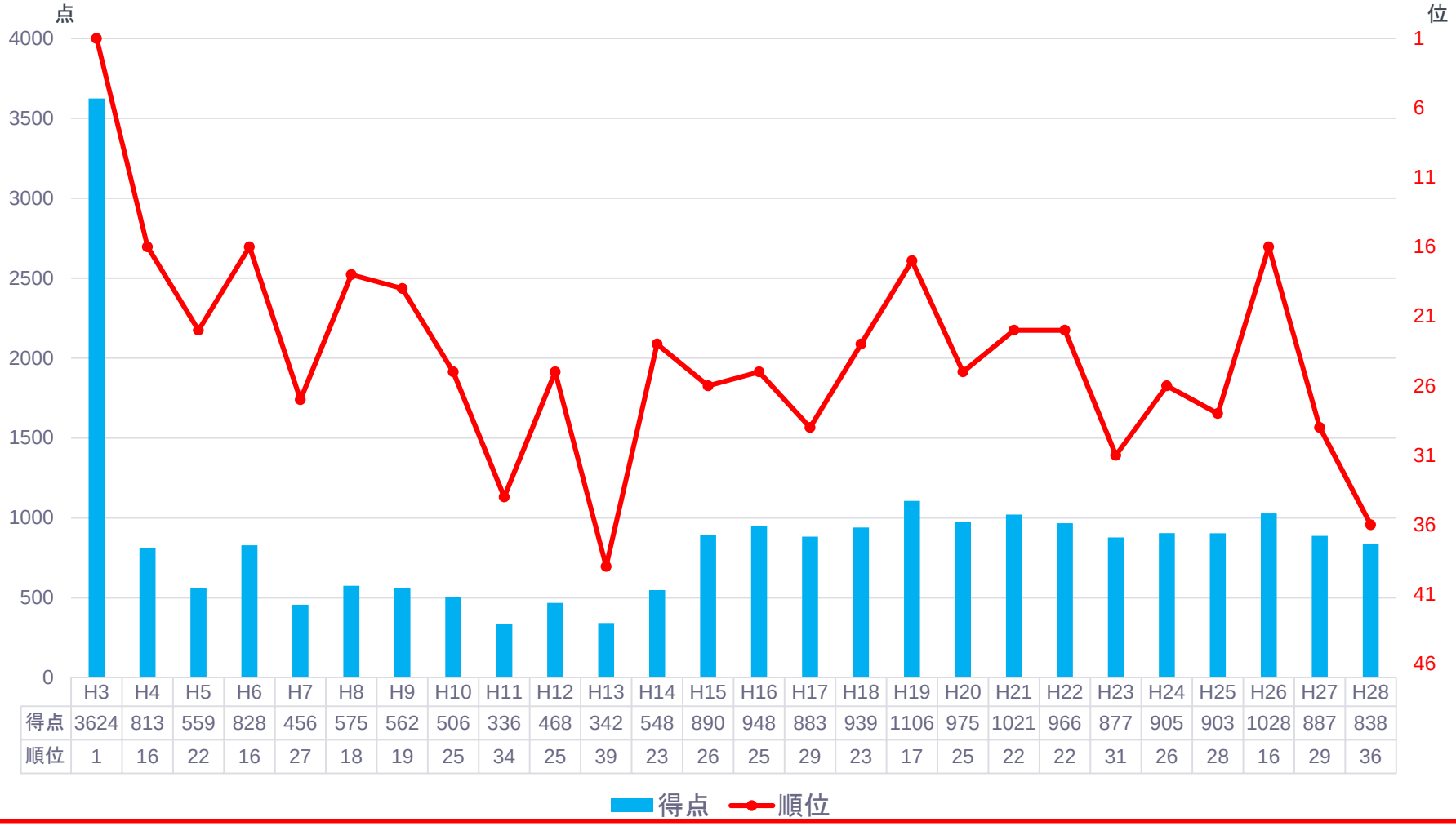


全体的な傾向としては横ばい。各年代男子が女子を上回り、男女共通して中学生が最も高い。

（3）競技スポーツの振興

国民体育大会総合成績（天皇杯）

データ出所：
・石川のスポーツビジョン（資料編）
・公益財団法人日本体育協会ホームページ



	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
得点	3624	813	559	828	456	575	562	506	336	468	342	548	890	948	883	939	1106	975	1021	966	877	905	903	1028	887	838
順位	1	16	22	16	27	18	19	25	34	25	39	23	26	25	29	23	17	25	22	22	31	26	28	16	29	36

地元石川開催の平成3年（総合優勝）以降も、中位（16～36位）を継続している。

分析から見えてくる論点

（1）生涯スポーツの振興

・県民の運動・スポーツ活動実施率はH13年調査からH24調査にかけて低下している。ただ、「運動やスポーツは現在行っていないが、行いたい」という人の割合が47.0%であることから、県民ニーズには対応しきれていないことが伺われる。かかる意味では、県民スポーツ・レクリエーション祭の拡充・拡大、総合型地域スポーツクラブの質的充実だけでは拾うことができなかった、潜在的なスポーツニーズへのアプローチが求められる。

（2）学校体育・スポーツの充実

・児童生徒の体力・運動能力については昭和60年頃から低下傾向にあったが、近年は徐々に回復傾向にある（「ボール投げ」については現在も低下傾向がみられる）。運動の習慣化（週3回以上のスポーツ実施　※体育の授業を除く）については、中学生が最も高く、運動部活動がその下支えになっていると考えられる。数値としては表れていないが、「運動の二局化」の傾向など、子どもたちが運動やスポーツをもっと気軽に楽しむことができる機会づくり、場づくりが求められる。

（3）競技スポーツの振興

・国民体育大会総合成績では、地元開催の平成3年（総合優勝）以降も、中位（16～36位）を継続している、より上位を目指すのであれば、これまでにない、新たな施策を講じることが必要となるのではないか。

特記事項 「体育」から「スポーツ」へ

◆県民文化スポーツ部スポーツ振興課の設置（平成29年度～）
◆2020年東京オリンピック・パラリンピック開催

平成28年度まで県教育委員会事務局内に設置されていた「スポーツ健康課」が平成29年度より、県民文化スポーツ部スポーツ振興課として移設されている。

今後は、狭義での「体育」から、より広義での「スポーツ」として、今後は「健康寿命の延伸（医療・福祉分野）」、「スポーツ・ツーリズム（観光・経済分野）」、「海外チームの合宿誘致（国際交流）」、「コミュニティでの人間関係再構築（地域振興・まちづくり分野）」など、他分野横断型の施策を推進際のキーコンセプトとなりうるものと考える。

このような流れは全国的にも、緒についたところであり、今後どのような戦略、戦術をもって政策展開してくかが論点となるだろう。